中央新報　2021年（令和3年）5月16日（日曜日）（第3種郵便物認可）

学園こだま voice

浜田医療センター付属看護学校（浜田市）

1年の学びを終えて②

助産師になり性教育を実践

2年　石田　裕奈

私は将来、助産師になりたいと思っています。小児保健の授業を受けて、さらに助産師になりたい気持ちが大きくなりました。助産師になって学校やこれから親になる人への性教育に携わりたいです。

今までの学校での授業では命の誕生など簡単な性教育しか受けていませんでした。なぜ、簡単なのだろうと思っていたけど、小児保健の授業で性教育があまり行われていない背景を知り、助産師になって取り組みたいと思いました。

また、小さい頃に性被害に遭ったことを大人になって気付いたという投稿を会員制交流サイトで見て、学校では性被害などは教えてもらわなかったと感じました。

助産師なら、これから親になる人に性教育の必要性を教えることができると思います。だから私は、助産師になりたくさんの人の命を守りたいと思いました。

患者に寄り添える看護師に

2年　多々納沙羅

「死」は誰もが恐れていると思う。私も怖いと思っている。私は過剰に「死」を恐れたために苦しい思いをした経験がある。

高校3年の夏、祖父がこの世を去った。身近な存在の死にショックを受けたのか、常に死について考えるようになった。次第に「自分はもうすぐ死ぬのかも」と思い詰め、息苦しさを感じていた。息苦しくなるたびに不安と恐怖を抱いた。

そんな気持ちを当時の担任の先生や養護の先生、母が否定することなく寄り添い、話を聞いてくれた。今でも死について考えることはあるが、息苦しくなることはなくなった。

疾患を抱えている患者さんは私以上に死に対する恐怖が強いと思う。患者さんが抱えている不安や恐怖を少しでも緩和できるように話をしっかりと聞き、寄り添える看護師になりたい。

児童虐待の実態を知り驚き

2年　高木　涼羽

小児保健の講義で児童虐待のことについて学びました。最近テレビなどで多くの児童虐待についてのニュースを目にします。虐待を受け続け命を落としてしまった子どもたちの多くは自分からSOSを発信したり、児童相談所が一度は家庭を訪問していたりしたことを知り、助けられたかもしれない命を助けられなかったということは非常に残念なことだと思いました。

また、講義の中で過去に虐待を受けていた人が自分の子どもにも同じように虐待をしていたケースを聞き、驚きました。

児童虐待は、このように悪循環を生むからなくならないのかとも思いました。虐待が起きてしまう背景にはさまざまな理由があると思いますが、親も子も共に助けを求められる場所ができ、少しでもなくなってほしいと思います。

この講義で、自分が育った環境が当たり前ではなく、感謝しなければならないと学びました。今後も学ぶことができている環境や家族への感謝を忘れず勉学に励みたいです。